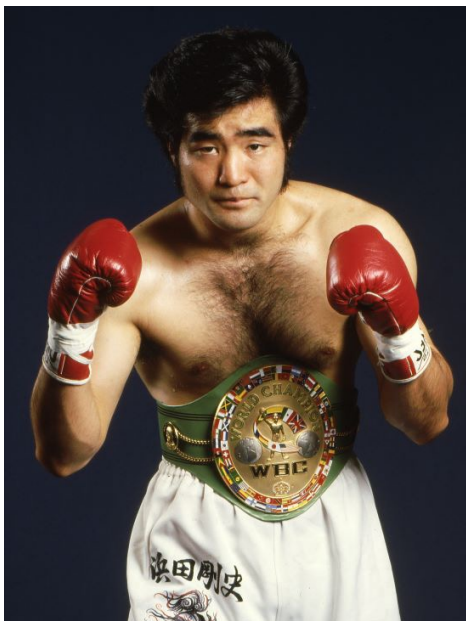


第13回 日本スポーツ学会大賞受賞記念講演

主催：日本スポーツ学会、特定非営利活動法人スポーツネットワークジャパン

受賞者 帝拳ジム および 帝拳プロモーション 村田諒太氏 (元WBA世界ミドル級スーパー王者)



浜田剛史氏 (現 帝拳ジム代表)

(写真・ボクシング・ビート誌)



村田諒太氏

2022年は白井義男氏が日本人初のプロボクシング世界王座を獲得して70年にあたり、ボクシングの聖地・後楽園ホールがスタートして60年という節目でもあります。

帝拳ジムは数々の名選手を育成・輩出するとともに、「ダイナミックグローブ」の興行を60年以上続け、ボクシングの魅力と感動を広めてきました。同ジムの本田明彦会長は、それまでアメリカ国内でしか行われていなかった当時の世界ヘビー級王者マイク・タイソンの試合を1988年、90年と日本で開催。その成功が海外からの信頼を集めるとともに、各国へ人脈を広げることにつながり、フェアなプロモーターとして世界的に認知されるようになりました。2022年4月にはWBAスーパー・IBF・IBO世界ミドル級王座統一戦「村田諒太vsゲンナジー・ゴロフキン」のビッグマッチを実現させ、11月のWBC・WBA世界ライトフライ級王座統一戦と12月のWBA・WBC・IBF・WBO世界バンタム級王座統一戦の日本開催の礎になりました。

帝拳ジムに所属する村田諒太選手は、2012年のロンドン五輪でミドル級の金メダルを獲得。プロ転向後も世界チャンピオンとなり、五輪の金メダルとプロの世界チャンピオンという2つの王座をあわせ持つ、日本人初のボクサーとなりました。また、村田選手は文武両道の知性でも人々を魅了しています。2017年のWBA世界ミドル級王座決定戦では、4ラウンドにダウンを奪うなど終始アッサム・エンダム（フランス）を圧倒したにもかかわらず、判定は1-2でエンダムを支持して敗れました。世界中がそのジャッジを不服とするなか、村田選手は試合後に「結果は結果。僕自身がどう受け止めたかではない。第三者の判定がすべて」と潔く話し、翌日にはエンダムに電話して「素晴らしい経験をありがとう。昨日は敵だったけど、今日は友だね」と語りました。海外メディアもこの様子を見逃さず「村田は武士道を買いた」とたたえており、同選手のフェアプレー精神も日本スポーツ学会大賞授賞における評価の対象となりました。

受賞記念講演では、帝拳ジム代表で元WBC世界スーパーライト級王者でもある浜田剛史氏と村田諒太氏にお話をうかがいます。

どなた様も友人をお誘いのうえ、ふるってご参加ください。

日時：2023年1月25日(水) 19:00 ~ (開場18:40)

会場：ハクジュホール (東京都渋谷区富ヶ谷1-37-5)

株式会社白寿生科学研究所 本社ビル7F

東京メトロ千代田線・「代々木公園」駅より徒歩5分

参加費：一般1,000円 日本スポーツ学会会員は無料

定員：200名 (事前申込不要)

当日先着順ですので、時間厳守で直接会場へお越しください

問い合わせ：sports.gakkai@gmail.com (日本スポーツ学会)

03-3323-0893 (スポーツネットワークジャパン)

- ・上記連絡先以外へのお問い合わせはご遠慮ください
- ・電話担当者不在の場合は、ご連絡先を留守番電話にお入れください
追って、こちらからご連絡を差し上げます
その際、ゆっくりとお話いただきますようお願いいたします

日本スポーツ学会 (スポーツ・ネットワーク)

<https://www.sports-gakkai.jp/>

特定非営利活動法人 スポーツネットワークジャパン

<http://sportsnetworkjapan.com/index.html>